

# 令和4年度 社会教育委員会臨時会議事録

開催日時：令和4年10月19日（水）

午後1時30～3時20分

開催場所：恵那市役所会議棟 大会議室

## 会議次第

1. 開会あいさつ
2. 岐阜県社会教育委員連絡協議会表彰（伝達表彰）
3. 教育長あいさつ
4. 社会教育委員長あいさつ
5. 議題
  - (1) 令和3年度家庭教育支援計画事業の成果と課題の検証
6. その他
  - (1) 第14回岐阜県社会教育推進大会について（結果報告）

日時：令和4年10月7日（金）  
会場：可児市福祉センター（メイン会場）、恵那市役所（サテライト会場）
  - (2) 東海北陸社会教育研究大会について（結果報告）

日時：令和4年10月13日（木）～14日（金）  
会場：東海市芸術劇場（東海市）
7. 閉会あいさつ

・出席者の数：社会教育委員14人中6人、事務局4人（以下のとおり）

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員長	林 達夫	恵那市三学のまち推進委員会	出席
2	副委員長	磯部 彰	恵那市図書館協議会	出席
3	委員	山内 正一	学識経験者	欠席
4	委員	山田 恵市	恵那市文化振興会	出席
5	委員	相原 正文	恵那市青少年育成市民会議	出席
6	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	欠席

7	委員	柘植 俊夫	恵那市民生委員児童委員協議会	欠席
8	委員	小林 英文	恵那市壮健クラブ連合会	欠席
9	委員	百松 義朗	NPO まちづくり団体	欠席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	欠席
11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	欠席
12	委員	伊藤 幸正	恵那ライオンズクラブ	出席
13	委員	阪上 美代子	恵那市スポーツ推進委員連絡協議会	出席
14	委員	土屋 真由美	校長会代表	欠席

事務局

1	教育長	岡田 庄二	恵那市教育委員会	出席
2	課長	柄澤 史枝	生涯学習課	出席
3	課長補佐兼係長	伊東 将昭	〃	出席
4	主査	今井 ちえこ	〃	欠席
5	社会教育指導員	遠藤 滋	〃	出席
6	社会教育指導員	小坂 忠昭	〃	欠席
7	社会教育指導員	和田 克子	〃	欠席
8	社会教育指導員	太田 礼子	〃	欠席

1. 開会

(事務局) 皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。それでは、定刻となりましたので、これより令和4年度恵那市社会教育委員会臨時会を開催させていただきます。今回は、第2回社会教育委員会で審議いただいた議題「令和3年度家庭教育支援計画事業の成果と課題の検証」が、継続審議となっていますので、審議の続きを行っていただきたく、臨時会として開催させていただくものです。臨時の開催にも関わらず委員の皆様にはご出席賜りありがとうございます。

それでは、資料の確認をさせていただきます。まず会議次第になります。他に、持参をお願いさせていただきました、第2回社会教育委員会の会議資料を使用いたします。会議資料が無い方がみえましたら遠慮なくお申し付けください。

2. 岐阜県社会教育委員連絡協議会表彰（伝達表彰）

(事務局) 10月7日に開催されました、岐阜県社会教育推進大会において、岐阜県社会教育委員連絡協議会表彰（県表彰）が行われました。当日は、感染対策によりサテライト方式の開催となり、表彰は代表者授与となりました。これに伴い表彰状と記念品

が届いておりますので、本会において、伝達表彰させていただきます。

それでは、表彰を受けられる委員様で今回ご出席の委員様に、教育長から表彰状を授与させていただきます。

磯部 彰 様（教育長より授与）

山田 恵市 様（教育長より授与）

尚、本日はご欠席ですが、各務周和子様、田口容子様、昨年度まで委員をお務めいただいた松村通男様も表彰をお受けになられます。お三方につきましては事務局より伝達させていただきます。

それではここで、岡田教育長からあいさつ申し上げます。

### 3. 教育長あいさつ

（教育長）皆さま、こんにちは。貴重な時間をいただきまして、本日は臨時ということでお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。最初に、表彰を受けられました、磯部様、山田様、ありがとうございます。5年という長きにわたり携わっていただき、いろいろとご協議、ご助言やご指導いただき、感謝申し上げます。これからも様々な観点から恵那市の教育にお力添えいただけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

今日は、家庭教育支援計画事業の検証の続きをしていただきますが、今、子どもたちだけでなく、大人、親が学ばなければいけない時代だと思えます。項目がたくさんあり大変ですが、よく見ていただいて、検証しながら前へ進めていきたいと思えます。

また、後程報告があるようですが、10月7日の岐阜県社会教育推進大会へ9名、10月13、14日の東海北陸社会教育研究大会へ5名の方々にご参加いただきました。積極的に様々な研修にご参加いただき、ありがとうございます。そこで見聞きしたことを、社会教育委員会等で交流していただき、恵那市の社会教育に活かしていただけたらと思えます。本日は、よろしくお願いいたします。

（事務局）ありがとうございます。続きまして、林委員長からご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

### 4. 社会教育委員長あいさつ

（委員長）こんにちは。臨時の社会教育委員会となります。前回、家庭教育支援計画の成果ということで、じっくり話し合ったため、予定以上の時間をかけてしまいました。話せなかったところを本日検証し、まとめていただいて、来年の実践に結び付けてほしいと思えます。皆様のご意見をお願いします。初めて経験される方もいらっしゃると思いますが、主に行政が成果と課題を出し、次年度どうしていこうかという考え方で作られています。これを見て、私たち社会教育委員が評価します。「行政はよくやっている」とか、「成果は身近な子どもや親にどう反映されているか」などの目線で評価していきたいと思えますので、自分の思いを発言いただけたらいいと思えます。よろ

しくをお願いします。

また、10月はいろいろな大会がありました。大変ですが、他市や他県の活動を見ることが非常に参考になるので、来年度も東海北陸の大会、県の大会、東濃地区の大会に大いにご参加いただき、社会教育委員の活動に活かしていただきたいと思います。以上です。

(事務局) 委員長ありがとうございました。では、これから議題に入りますが、教育長は他の公務がありますので、ここで退席させていただきます。

(教育長) よろしくお願いいたします。

(事務局) 議題の議事進行を、林委員長にお任せいたします。お願いします。

## 5. 議題

### (1) 令和3年度家庭教育支援計画事業の成果と課題の検証

(委員長) 継続審議として、計画の柱3と柱4の成果と課題について審議します。事務局から説明をお願いします。

(事務局) 家庭教育支援計画において、令和3年度の各事業について、各担当課で記載して一覧表にまとめてあります。第2回の続きということで、柱3、柱4をご審議いただきたいと思います。第2回で使用した資料と別に、A3カラーの資料をお配りしました。こちらは主に学校教育の分野になり、前回のものの差し替えとなります。前回配布したものは、課題が寂しい状況でしたので、担当課で追記してきました。参考にしてください。

それでは、前回までの振り返りをさせていただきます。前回、柱1、柱2それぞれにご意見をいただきました。中身としては、柱ごとに力を入れるといい部分や、まだまだ足りていないのではないかとという部分、こういうやり方にするといいのではないかとという部分、そういったご意見をそれぞれのお立場から頂きました。

柱の1について特に出た意見として、放課後児童クラブの指導員の確保、指導方法について、市内計20ヶ所の放課後児童クラブで統一して、指導者の確保や指導方法の研修をやっていくといいのではないかとご意見いただきました。また、様々な乳幼児やこども園など就学前のお子さんに対して、〇〇講座、〇〇教室と家庭教育の面で施策を行っていますが、自主的に参加できない人、関心がない方へのアプローチ方法について、子どもの健診やこども園で行われる教室など、保護者が必ず来る機会を利用して家庭教育につなげるやり方が必要ではないか、とのご意見をいただきました。その中で、指導者の育成ということで、保護者の相談に乗る指導者が知識を身につけ、何度も話すうちに信頼関係ができ相談につながるの、指導者の確保に重点的に予算もつけていただきたいと思います、とご意見をいただきました。

柱2について、図書館のおはなし会を話題にいただきまして、コロナの影響もありますが、おはなし会への参加者が年々少なくなっている、中央図書館への来館者も年々少なくなっている状況があります。各コミュニティセンターには図書室がある

ので、大井町・長島町在住の方にどのように足を運んでもらうかということで、たべとるマルシェやその他イベントの機会と絡めて、図書館の利用を呼び掛けていったらどうか、とご意見いただきました。もうひとつ、スポーツの関係で、スポーツ少年団や総合型の地域クラブでの指導者の高齢化が進んでいる。大学生に声をかけても、報酬がネックになる。指導者の更新料も行政主導で対策をお願いしたいとご意見がありました。続いて、こども園の体力測定について、体力測定をしておりデータはあるが、そのデータがどう分析されて、その結果、どう子どもたちに指導し、子どもたちの体力に還元されているか、各こども園の園長や職員がどう受け止めているかの温度差があるだろうし、ただ測定して「こういう結果だった」で終わるのではなく、分析し、指導して子どもたちに反映させていけるといいのではないかとご意見いただきました。

柱1, 2とポイントを絞っていただき、行政としてやるべきこと、参加する方が「こんなふうになるといい」とご意見をいただきました。引き続き、柱3、柱4に移っていただきたいと思います。

柱3は、主にこども園における教育、小中学校のICTや外国語教育になります。柱4は、中高生のキャリア教育など、将来につながる事業になっております。ご意見をお願いいたします。

(委員長) ありがとうございます。柱1, 2についてもまとめていただいて、思い出せたのではないかと思います。特に来年度ここに力を入れていただきたいというところまで考えられるといいと思いますが、その前に、評価について、実績・成果・課題・方向性の検討への意見をいただきます。順番をお願いします。

(委員) 4番の「学校教育振興事業」は新たに入ってきたICTですが、「今後の恵那市ICT教育の新たな推進に向けて研究が必要である」と書かれていますが、この研究の具体化は、教科指導としてのICT教育と捉えていいのでしょうか。新聞等が出ている「これからの子どもたちの健康面」が気になります。デジタル教科書と従来の教科書での視力への影響、社会科の紙媒体の資料もデジタルで見られるようですが、学力向上、学ぶ姿勢に加え、健康面のことも課題として入れていただきたいと思います。ICTを有効に使って学びができるが、反面、情報モラルの研究もしていくとのことで、負の部分もしっかりやっていただきたいと思います。

(委員長) タブレットなどは手段としていいが、視力低下も問題となります。その辺の学校での指導への提案をいただきました。スマホを持っていると、先生も親も見えない部分が多いです。情報モラルにどう対応していくかを考えていかなければなりません。ICTのデメリットへの提言です。このことについて、ご意見ある方はいますか。

(委員) 私は5年間、週に1回地域の子どもたちを教えています。明らかに変化していることは、操作能力に長けてきており、思考判断力が弱くなってきています。それは、ここで言うべきことではないかもしれませんが、学校の先生がICTに力を入れており、子どもたちの操作能力は伸びている、これはいいことだと思います。ところが、

例えば、「時速 60 キロで車が走っています。1 時間走ったら何キロ進んだでしょう」という問題は、「速さ×時間＝進んだ距離」という方式を知らなくとも、答えがわかるはずですが、でも、読み取れない。学校でも、算数・数学は教え方が難しいです。それは、授業中わかっているようで授業を進めても、ふりかえりをした時に全然理解していなかったとわかります。ひとつに力を入れれば、他方が弱くなるのは仕方がないことですが、そこを補完することを考えていかないといけないと思います。デジタルの操作で買い付けや経理は捗るかもしれないが、先を見て考えて経営する能力は育たないかもしれません。与える時期の問題で、個性と言えはかっこいいが、「あなたはこれが得意」と、早い段階での仕分けになってしまわないか、他の可能性を潰してしまわないか心配です。私は、耳で聞いて、目でホワイトボードの文字を追って、ノートに書きとるサイクルを大事にしています。発達段階が合えば、能力はとても伸びると思いますし、可能性を秘めている。けれど、私たちはデメリットも知りながら携わっていかなければならないと思います。

(委員長) 思考過程が残らないと、どこで引っかかったのかわかりません。写真で残すと過程が残らないという指摘だったと思います。ICT は目的なのか、手段なのかを明確にすべきです。自由に使えるよう「使い方を覚える」という知識・理解を与えることが目的でもあります。教育全体とすると、「ICT を使って学ぶ」ことは手段になります。「ICT さえ使いこなせばいい」と間違っていて捉えている先生はいないかと危惧されたように感じました。

(委員) 算数の学びは、本質と内容と方法とテクニックと、うまくやっていかないと身につけません。

(委員長) 学校教育課や教育研究所で ICT をどう使っていくか、教育全体を見て考えていただき、分析してもらえるといいと思います。ライオンズクラブさんから、経済の関係でいかがでしょうか。

(委員) ICT は完璧に必要です。けれど、子どもに全て与えるのは早いように思います。私個人の意見としてですが、学校の先生が足りないのではないのでしょうか。

(委員長) 足りないと思います。

(委員) 人員確保だけでなく、生活面から教育面から、全て足りないと思います。我々 50～60 年前、学校の先生と子どものやり取り、それに係る親の立場はどうだったのか、大人にばれないようにずるいことをする面も必要だと思います。ただ、私たち祖父母世代、親世代の責任もあり、今の子どもたちが先生に暴言を吐いたりしています。先生、子ども、親が一体となってやってもらわないと、世の中うまく回らないと思います。

(委員長) 三者の信頼関係は、教育として最も大切なところです。次、いかがでしょう。

(委員) 私は、学校でタブレットを使うと聞いた時に、自分が苦手なこともあり、小さい子にもわかるのかと心配でしたが、学校から持ち帰り、それなりにやっています。家庭によって、本が好きな家庭もあれば、スマホばかりかまっている家庭もあります。

今、子どもたちも漢字や意味が分からない時も辞書でなくスマホやタブレット検索が主流になっています。手で書く、目で読む、目で追うことも大事だと思うので、何でも ICT ではなく、使い分けて両立することを教えてもらえたらいいと思いました。また、自然とふれあう内容の勉強が多くほしいと思います。

(委員長) ICT の行きすぎ、何が大事なのか考えていただけたらと思います。

(委員) 中央図書館では、電子図書を入れるかどうか問題になっています。図書館の配慮として、地域住民から希望が多くなれば対応できるよう 2～3 年を目途に進めようとしています。個人としては、電子図書を図書館に入れる意味は何かと思ってしまいます。電子図書は、図書館へ申し込んで送ってもらいます。図書館へ行かなくとも、自宅のパソコンで済んでしまいます。電子図書は、協会で提供できる物が決まっています、それを図書館が買い取ります。いったん買い取れば、普通の本と同様、一定期間の貸し出しが可能です。図書館は、たくさんの本があり、知識を増やす、生活を潤すための本を探す場所であったのですが、ICT によって、生活の潤いどころか、人と人とのふれあいが少なくなって、機械に人間の生活が取り上げられてしまうような気がしています。どうしたらいいかわかりませんが、疑問を持っているところです。

(委員長) 今、会話力・対話力などの人間関係づくりが問題になっています。小さいころから喧嘩して対話もできていれば、どこまでやっていいかがわかってきますが、その経験がないのでやりすぎてしまうようです。授業の中で、目と目を合わせて対話し、思いを通わせることができているのか、タブレットだけではそれができません。やはり、使いどころを考えていく必要があると思います。恵南地域の中学校では、各校をつないで画面越しに授業を行うこともあるそうです。そういういい面もありますが、基本は顔と顔を合わせてやることで、相手の気持ちを読んで、失敗しながらも大人に成長していくのだと思います。佐藤一斎も弟子と面と向かっています。剣道や、柔道もそうですが、そのふれあいを学校やこども園でどうやっていくか、人的環境を充実させていくことが必要だと思います。

(委員) 質問です。タブレットが授業に入ってきて、授業効果は上がっていますか？

(委員) 今、私が思うのは、手段としてとても便利になっています。器械運動では、先生が自分の映像を撮ってくれて、自分で見られます。跳び箱を跳んで、踏み切りや手の付き方を見てから、もう一度跳ぶということが出来ます。学習効果は上がります。中学生では、映像を見て思考する力は出ますが、低学年にどう影響するかはわかりません。練習問題はすぐ答え合わせできてしまい、体で覚えることにならないので、個人的にはどうかなと思っています。自分でノートに書くという動作はあった方がいいと思います。

教科ごとに、「算数ではこういう目的でタブレットを使います」という風に決めていくといいと思います。また、子どもたちがその目的を理解できるかどうかもあります。

(委員長) 取り組み始めたばかりなので、試行錯誤しながらですが、理想的な方向を追

求していくのだと思います。「ICTは何のために」を明確にしていくといいと思います。

(委員) ICTはタブレットだけではありません。遠隔で串原とか上矢作、岩村や山岡と合同で授業をします。串原の中3は2人ですが、遠隔でつなぐと他の人の意見を聞いたり研究ができます。そんなメリットもあります。

(委員) 今の人たちは、在宅や違う場所に行って仕事ができないといけない。けれど、取引の時は会って対面で話をすると聞きます。

(委員) 対面が一番いいですね。リモートもいいですが、寂しいところがありますね。今の保護者がパソコンやタブレットを持たせますが、勉強面だけでなく、自分が子どもを見るのが大変なので、「これでゲームでもやってなさい」というところでしょうか。親が自分の時間を持てるので。

(委員長) 育児放棄になってしまいますね。

(委員) 親が自分の時間が欲しいのはわかりますが、もっとシンプルに子どもを可愛がったり叱ったりしてほしいと思います。

(委員長) ICT教育についてこれだけたくさんの意見があるということで、これをどう子どもの教育に活かしていくことができるかどうか、重点的に研究を進めてほしいと思います。

(事務局) たくさんご意見いただきましたので、記録を取らせていただき、学校教育課はじめ教育研究所にも共有します。ありがとうございます。

(委員長) 他の観点から何かありますか。

(委員) 私たちが携わっている地域学校協働活動と関連する部分が、8番の特色ある学校づくりですが、推進員さんとの研修会で思ったことです。我々と同世代の推進員さんと若い世代の推進員さんと移住してきた推進員さんと、認識の違いがありました。長年住んでいるものは、伝統文化の継承など、1つの特色が多方面に広がるというのが強みかと思います。何十年も前に地域学校教育推進事業のモデル校で中野方が出て、あいさつ・花・栗の3つを地域と子どもと一緒にやるということがありました。そして、教育研究所から中野方は地域学習、三郷は英語教育に力を入れようとなりました。また、可知市長が地域自治に力を入れた経緯があります。これを知っているか知らないかで、何をやるかが違ってきます。中野方は多岐にわたるし、串原は太鼓という一本の軸でやっているように感じています。地域学校協働活動で新しい物を作って特色を作るというよりも、あったものにまず乗っかって位置づけ、そして、学校とともに新たなメインを作っていくという手順でいくと、これまでの歴史文化が生きてきます。それを知らずに何かやろうと思うと、推進員さんが苦しめます。そこの地域や学校がやってきたことを知って、そこに乗っかってから、自分のものを乗せていけるといいなと思いました。

(委員長) 新しいものを作り出すと大変なので、今まであるものを核にしながらやると、みんなが知っているし経験しているので、「じゃあ、もう少し深くやろうか」という



ことがやりやすいです。「何を核にするか」「どこに重点を置くか」を決めることが必要で、手広くやりすぎると分解してしまいます。特色ある学校づくりでは、無理していないかどうか、今までの伝統はどうか、特色ある活動は過去からどのくらい続いているのか、その辺を確認しながら、何が足りないのか考えて、進めていってほしいです。後はどうでしょうか。

外国語活動とは、英語であれば、「英語活動」でいいのではないかと思います。  
(事務局) 確認します。

(委員) 6番の地域未来塾はどういった活動ですか。また、周知はどうしていますか。あと、明智駅の近くで電車の待ち時間に勉強できると聞いたことがあります。

(遠藤社会教育指導員) 大井や長島は民間の学習塾がありますが、周辺部は塾がないところもあります。そこで、文科省の補助金から少しの講師料を賄い、教師OBたちが中3限定で教えています。子どもたちの受講料は無料です。塾のない地域限定でやっています。

(委員) 地域学校協働活動でやっている地域もあります。

(事務局) 明智駅のスペースは、南高校生が明知鉄道で下校する際、待ち時間があるので学習できる場所が欲しいと要望があり、自習できるスペースが明智駅横にできています。

(遠藤社会教育指導員) 地域で自主的にやっているのでしょうか。

(事務局) 市が直接やっているわけでないと思います。

(委員長) 調査して、ボランティアで指導しているようであれば、少し指導料を出せるようにしてほしいと思います。

(遠藤社会教育指導員) 高校生が中学生に教える、中学生が小学生に教える形ができると、理想的ですね。

(委員) 大井の行在所で夏に、恵那高生が教えるようなことをしていました。

(委員) 未来塾に関しては、民間との兼ね合いもあるし、十分検討が必要です。

(委員長) 子ども食堂のようなボランティアでやってもらえる形であればいいのでしょうか。

(委員) 難しいと思いますが、土曜日や平日放課後の学校を使って「教えたい人」を募り、「教わりたい」子どもが参加する形だと、軋轢がなくていいのではないのでしょうか。

(委員長) 山岡で親子学園として、得意な人が、勉強や囲碁などを教えていた事例もあります。民間塾とのトラブルには注意したいです。

続いて、柱の4をお願いします。

(質問) 2番は、今も市が主導でやっているですか。

(事務局) 把握していません。

(質問) 学校主導では大変なので、事業所への依頼など、市でやってくれるととても助かります。

(遠藤社会教育指導員) コロナ禍、地域の事業所に出での活動が減っていますが、昨年度、東中学校のPTA活動で、中学校へいくつかの事業所に来てもらって、職業講話と体験をしてもらっていました。

(委員) その活動は、地域の回覧で回ってきたので、地域の人たちにもよくわかって「成功だね」と校長と話していました。学校関係者でない人も、子どもたちがこうして職業体験をしていると理解できたと思います。

(委員) 職場体験の派遣先はどうやって決めますか。

(委員長) 希望を取っていると思います。

(委員) 図書館にも来ますが、司書の仕事をしてみたいというより、本が好きという理由で来ているようです。

(委員) 中学2年生は、不安な時期と言われますが、この体験の3日間でとても成長しているように思います。3年生に向けてのいい機会だと思います。

(委員長) 校長の時に、全ての子どもの体験先へ、子どもたちはどうかと聞きに回りますが、代表の方と知り合いになる機会にもなりました。事業所のおかげで職場体験ができてありがたいです。自分の希望先に行けるのでいいですね。仕事はまず好きでないとできないので、行ってみたら思っていたのと違うとか、思ったより良かったとか感想を持ちますし、その後お礼の手紙を書くことで、礼儀や感謝の気持ちを表すことを学びますのでいい総合学習だと思います。学校現場としては、希望がないかもしれないということも含めて、毎年教育委員会から事業所へ依頼しておいてもらえるとやりやすいと思います。最後のお礼も教育長名で出していきたいです。そのほかいかがですか。

(委員) 高校生のことですが、市が提携している大学はありますか？例えば、岐阜市だと岐阜大学の学部が地元の小学校へ出向いて一緒に学ぶことがあります。

(遠藤社会教育指導員) 中部大学と中京学院大学と提携を結んでいます。

(委員) 実践女子大学もですが、大学生との関りができるといいなと思います。

(遠藤社会教育指導員) 岐阜大学は、希望すれば学生を派遣してくれますが、遠いので難しいなと思います。

(事務局) 市と大学とでお互いに連携を結んで、大学の先生を講師に招いて講座を開くなどは前からありました。逆に、恵那市を研究テーマのフィールドとして研究させてほしいと大学から依頼されることもあります。教授やゼミ生が来て研究し、報告をもらうこともあります。ただ、学生が来て、小学生に何か教えるというマッチング事例はないと思います。

(委員) 教育実習だけでなく、来てもらって、地元をよく知って、地元の子どもたちに教える形をうまく作っていただけたいと思います。

(委員長) 恵那市から通っている大学生が、自分の母校または周辺の小中学校へ行って、遊んだり勉強したりできないかと思います。そういう宣伝を市教委からやってもらえたらどうでしょうか。大学生のうちから子どもをどう扱ったらいいか体験してほしい

と思います。子どもたちにとっても、大学生にとっても、学校の先生にとっても、地域にとっても、非常にありがたいことだと思います。地域の祭りにも大学生の参加がないので、そういう学生がいると入りやすいと思います。大学生の入ってきやすい仕組みがあるといいです。

(遠藤社会教育指導員) 夏休みのこどもフェスタは、中京学院、岐阜大学、聖徳大学の学生に参加してもらえるよう、大学の事務局にお願いに行ったりしました。恵那高の校長先生には、教員希望の生徒に声をかけてほしいと伝えてはいますが、各学校へ出向いていくことはできていません。

(委員長) 5番の次代の親の育成もありますので、見通しが持てるといいと思います。敷居を低く、入りやすい環境づくりが必要です。そのほかよろしいでしょうか。では、これで終わります。

(事務局) たくさんのご意見をありがとうございました。各課に共有させていただきます。重点を置くべきところなど、事務局でまとめさせていただきます、次回の委員会で報告させていただきます。

## 6. その他

(事務局) いくつか報告させていただきます。

令和4年10月7日(金)「第14回岐阜県社会教育推進大会」が開催されました。オンライン開催ということで、恵那市役所会議棟をサテライト会場として9名にご参加いただきました。笠松町の教育委員会や関ケ原町の歴史を通じた講座、中津川市付知公民館の避難訓練の様子事例発表がありました。ご出席の委員の皆さま、ありがとうございました。

続いて、翌週令和4年10月13日(木)～14日(金)に愛知県東海市で「東海北陸社会教育研究大会」が開催されました。1日目は5名、2日目は4名の委員さんにご出席いただきました。1日目は基調講演として、南医療生協の福祉関係の取り組み、2日目は分科会で、青少年育成、家庭教育、地域文化をテーマにした事例発表にご参加いただきました。冒頭、教育長も申ししておりましたが、来年度の県大会が10月20日大垣市で開催されます。全国の公民館大会、東海北陸の公民館大会を兼ねて、さらに社会教育の推進大会も兼ねるということで、大垣市で開催されますので、時期がきましたらご案内します。東海北陸の社会教育研究大会は福井県福井市で10月12～13日の2日間となり泊りがけとなります。その他報告は以上です。

続けて、次回日程のご案内です。令和4年11月29日(火)午後1時30分～午後3時、場所は市役所会議棟大会議室で開催します。

委員の皆さま、その他、ご意見・ご報告などよろしいでしょうか。長時間にわたり、ありがとうございました。閉会のあいさつを磯部副委員長よりお願いいたします。

## 7. 閉会あいさつ

(副委員長) 貴重な意見をありがとうございました。9月14日、地域学校協働活動推進委員さんからお話を伺い、すごい人達だなどの印象を受けました。学校のこともよく知っており、あの方たちに任せておけば何とかなると思いました。その中で、地域の代表の方が、どんな形で出てきて、どんな事をやっているか、それから、地域を巻き込む必要があると思うのですが、例えば中野方や笠置などお祭りを中心に行っているところはうまくいっていると思いますが、私は大井ですが、どういう方が役員でいるのか、何をしているのかを知りません。きちっと活動は進んでいますが、活動をやりきる事が目的でなく、地域を巻き込む事が目的じゃないかと思います。とにかく、すごいバイタリティでやっていただいていることにびっくりしました。と感想でしたが、本日は、ありがとうございました。

令和4年10月19日(水)

社会教育委員会委員長 林 達夫

社会教育委員会副委員長 磯部 彰